

令和3年度日本小児外科学会  
第6回定例理事会議事録

日 時：令和4年1月19日（水） 11：00～16：00

会 場：大阪大学東京オフィス+Web

出席者（大阪大学東京オフィス）：

奥山宏臣（理事長・次期会長）、小野 滋（副理事長）、大植孝治、田中 潔（以上理事）、黒田達夫、山高篤行（以上監事）、照井慶太（庶務委員長）、仁田尾慶太（事務局）

出席者（Web）：

越永従道（理事・会長）、浮山越史、石橋広樹、内田広夫、淵本康史、米田光宏（以上理事）、田尻達郎（前理事長）、藤野明浩（庶務副委員長）、上原秀一郎（財務会計委員長）、浦尾正彦（財務会計副委員長）、菱木知郎（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門制度庶務委員会委員長）、金森 豊（第37回秋季シンポジウム会長）、野田卓男（第38回秋季シンポジウム会長）、臼井規朗（第39回秋季シンポジウム会長）

欠席者：増本幸二（理事）、家入里志（施設認定委員会委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、浮山越史理事、淵本康史理事とした。
2. 令和3年度第5回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 審議事項

1) 第59回学術集会について（越永会長）

越永会長より資料に基づき、現在の進捗状況の報告があり、承認された。演題申し込み時の倫理的手続きについて不備がある場合は、学術集会事務局から問い合わせを行う対応をすることとした。

日時：令和4年5月19日（木）、20日（金）、21日（土）

会場：虎ノ門ヒルズフォーラム

テーマ：創業と守成

2) 第60回学術集会について（奥山次期会長）

奥山次期会長より、ポスターを作成中であることや進捗状況が報告され、承認された。

日時：令和5年6月1日（木）、2日（金）、3日（土）

会場：大阪国際会議場

3) 第37回秋季シンポジウムについて（金森前秋季シンポジウム会長）

金森前秋季シンポジウム会長より資料に基づき、参加者等が報告され、承認された。

4) 第 38 回秋季シンポジウムについて (野田秋季シンポジウム会長)

野田秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況等が報告され、承認された。

日時：令和 4 年 10 月 29 日 (土)

会場：岡山コンベンションホール

テーマ：小児外科治療後のサルベージ

5) 第 39 回秋季シンポジウムについて (臼井次期秋季シンポジウム会長)

臼井次期秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況等が報告され、承認された。

開催形式は現地+webのハイブリッド形式で運営会社は九州舞台を予定している。

日時：令和 5 年 10 月 28 日 (土)

会場：九州大学百年講堂

テーマ：小児外科領域における感染症対策

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会 (照井委員長)

照井委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2021 年 12 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,689 名 (うち海外 1 名)、評議員 310 名、準会員 26 名、名誉会員 55 名 (うち海外 8 名)、特別会員 67 名 (うち海外 1 名)、賛助会員 1 団体の合計 2,147 名+1 団体である。名誉会員の故石田清先生、故岡本英三先生の追悼文の依頼先について検討された。

クオーター性について再度審議が行われ、次回理事会で定款施行細則の改定を行うこととした。

(2) 財務会計委員会 (上原委員長)

上原委員長より資料に基づき、昨年 12 月 22 日に学会支援機構で中間決算書の確認を行ったと報告され、例年通りの執行状況で健全な財政状況であることが報告された。また、バナー広告の申し込みが 1 社追加であったことが報告された。

(3) 専門医制度委員会 (菱木専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長、小野副理事長)

菱木専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長より、以下の点について報告があり、承認された。

- ・11 月 19 日にサブスペシャリティ領域整備基準審査結果説明会に参加し、小児外科専門研修は外科専門医研修と連動しての研修が認められた。

- ・サブスペシャリティ領域整備基準の評価への対応について、外科専門医との連動更新について疑義があり、外科専門医よりも専門性の高い 15 歳未満の 100 例以上の NCD 登録が必要として基準を改定する。

- ・新専門医制度の連動研修で 2019 年度から研修開始した専門研修医の審査について研

修3年目の2021年度1月から3月の研修歴と手術経験は、2022年の年次報告で登録されるため、研修履歴として集計できるのは2023年に提出される年次報告となる。そのため、新専門医制度下で小児外科専門医の申請ができるのは2023年とであることが確認された。

また、小野副理事長より、以下の点について報告があり、承認された。

- ・1月17日に開催された外科サブスペシャルティ領域連絡協議会に参加し、しばらくは学会認定専門医も機構認定専門医も広告することができる見込みであるが、いずれ機構認定のみになる予定である。
- ・日本専門医機構に各申請者のマイページを設けるようになり、個人情報を登録管理する方向である。
- ・サブスペシャルティ領域専門研修整備基準の研修期間の最長年限について各サブスペがバラバラであったため、上限を定めて再提出することとなったと報告がされた。整備基準については上限を10年と定め、10年を超える場合には審査の上研修を継続できるようにする形で再提出することとした。現時点の運用として、10年を超えている申請者がいた場合には、申請者本人から理由書を付して専門医認定委員会に申請書類を提出し、小児外科専門医の審査を受けることとする。

#### (4) 機関誌委員会（大植担当理事）

大植担当理事より資料に基づき、投稿論文の採択状況、機関誌への動画投稿を可能とする件について検討を行ったと報告された。

#### (5) 国際・広報委員会（淵本担当理事）

淵本担当理事より資料に基づき、関連学会・研究会ページについて改定案が提示され、承認された。関連する学会等が漏れていることが分かった場合には、随時更新していくこととした。

#### (6) 保険診療委員会（浮山担当理事）

浮山担当理事より資料に基づき、オンライン診療のみで継続的に診療が可能と思われる疾患の検討を行ったこと、開発候補医薬品の推薦として日本外科学会にSMOF lipidを推薦したと報告された。

#### (7) 教育委員会（内田担当理事）

内田担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、承認された。

- ・第37回卒後教育セミナー及び第12回内視鏡手術セミナーの準備について、内容と講師が決定し、運営をクロスコ株式会社に委託し、日本橋ライフサイエンスビルを基地局とする。委員の基地局までの旅費は学会で支給する。
- ・理事会内規の改訂として、今まで教育委員がセミナー講師を務めても無報酬であったが、負担等考慮し、会員と同額の報酬にすることが提案され、承認された。

・学生、若手医師のリクルート・育成するための具体的方策について、PR ビデオ制作ができる会社に見積もりを取ったことが報告され、テレビ番組制作もしている CBC クリエイションの感触が良かったこと、見積額が高いので素材は会員の施設から集めることや、映像構成を学会側で考えることとして、見積額を抑えられるよう交渉していくこととした。

(8) 悪性腫瘍委員会（大植担当理事）

大植担当理事より資料に基づき、2011-2017年の追跡調査を地区センター経由で行っていることが報告された。

(9) 学術・先進医療検討委員会（米田担当理事）

米田担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、承認された。

・2021年12月20日に審議依頼のあった、帝京大学医学部内科学講座 田中 篤先生からの学術アンケート調査：厚生労働省難病政策研究「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」について、本委員会で審議を行い、承認され、理事会でも承認された。

・奥山理事長から審議依頼のあった「非特異性多発性小腸潰瘍症の新診断基準（案）」について、賛同で問題無いとして回答したことが報告された。

・委員会に関する規約の見直しを行った。

・日本産婦人科学会からの「生殖医療・生命倫理に関する公的管理運営機関の設置の提案に関するアンケート調査」について、委員全員でそれぞれアンケートに回答したと報告された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(11) データベース委員会（田中担当理事）

田中担当理事より資料に基づき、今年度のNCDデータを利用した複数領域にまたがる新規研究について2件の応募があり、1件は取り下げになったので、1件の審査をおこなったと報告され、委員会で審議の結果条件を満たしたと報告がされ、理事会前に提出期限だったため、追認という形で承認された。

研究課題名:成人手術の Learning curve から推定される小児外科医の症例経験数の充足割合の検討

研究代表者:林 健太郎先生(東京大学大学院医学系研究科)

ただ、NCD側でこの研究ができるか実現性が現時点で不明ではあるが、学会から申請は行うこととした。

(12) 小児救急検討委員会（田中担当理事）

田中担当理事より資料に基づき、今年度の門田分担班の研究のCOVID-19による小児外

科診療への影響に関するアンケート調査の報告書がまとまったと報告された。また、来年度の門田分担班の研究として、COVID-19 による小児外科診療への影響調査を引き続き行う予定であると報告された。

2022年のPALS講習会は9月18日、19日に東京で開催予定で、BLSは前日の17日に開催予定。

(13) トランジション検討委員会（田中担当理事）

田中担当理事より資料に基づき、外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブックの目次案が提出され、前回よりも項目を増やして改訂を行う予定である。

(14) ワークライフバランス検討委員会（浮山担当理事）

浮山担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、承認された。

- ・10月29日に社会学者の上野千鶴子氏に『女性医師が増えると誰が困るのか？～医療のサステナビリティと未来』と題して講演が行われた。
- ・「ハラスメントに関するアンケート調査」を12月に調査をし、300名弱の会員から回答があり、第59回学術集会でハラスメントに関するワークショップを開催予定。
- ・「ハラスメント防止指針」の原案が提出され、再検討することとした。
- ・日本医学会連合から男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関するアンケート調査依頼に対応した。

(15) 規約委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(16) 研究倫理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、第59回学術集会時に行う研究倫理講習会の詳細について報告された。倫理指針の学会HPへの提示・掲載の件について検討を行ったと報告があり、国際・広報委員会と相談の上、掲載を進めることとした。

(17) NCD連絡委員会（淵本担当理事）

淵本担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、承認された。

- ・Q&Aを更新した。
- ・門田分担班の研究で解析結果が出て、内容確認中である。
- ・NCDデータの商用利用について意見が求められ、委員の意見をNCDに提出した。
- ・脳死ドナー手術のNCD登録について意見が求められ、回答案を作成した。
- ・コロナ禍のAuditについて、カルテをweb上で見るのには抵抗があるが、書面上でできるAuditを検討する。
- ・NCD登録方法の広報について、NCD領域会議休止に伴い、E-learningを活用した啓発等検討することとした。

(18) ガイドライン委員会（米田担当理事）

米田担当理事より資料に基づき、以下の点について報告があり、承認された。

- ・手術トリアージガイドライン（案）の意見が求められ、回答案を作成した。
- ・医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン改訂案について、意見が求められ、検討中である。
- ・腸回転異常症診療ガイドラインの簡易版の書籍化の校正中である。
- ・小児胃軸捻転症診療ガイドラインについて、CQ 検討会議を開催した。
- ・学会 HP ガイドラインの更新作業を開始した。

(19) 利益相反委員会（増本担当理事欠席のため奥山理事長）

増本担当理事欠席のため奥山理事長より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会（内田担当理事）

内田担当理事より資料に基づき、SMOF lipid を開発候補医薬品として推薦したと報告された。

(21) 総合調整委員会（小野委員長）

小野委員長より資料に基づき、以下の点について検討を行ったと報告された。

- ・ハラスメント予防指針作成について
- ・女性理事のクォーター制度について
- ・新専門医制度における学会の取り組み
- ・日本小児がん全国登録委員会の登録事業への関わり方について
- ・学術集会のあり方について
- ・小児外科関連研究会の今後のあり方
- ・小児外科専門医の地域ごとの適正数
- ・学生、若手医師をリクルートするための具体的方策
- ・海外での研修システム、海外からの研修の受け入れについて
- ・働き方改革や男女共同参画、外科医のインセンティブについて
- ・オメガベンの医師主導治験について

(22) 日本外科学会理事会（田尻前理事長）

田尻前理事長より資料に基づき、以下の点について報告があり、承認された。

- ・第 123 回外科学会学術集会における上級プログラムの内容が決定したと報告された。

(23) 四者協関連（奥山理事長）

奥山理事長より資料に基づき、テルモ株式会社にアセトアミノフェン静注製剤の小児用低用量製剤の開発に関する要望書を提出したと報告された。

7) 理事の辞任について（奥山理事長）

奥山理事長より資料に基づき、増本理事から体調を理由に辞任届が提出されたと報告があり、受理することが承認された。5月の社員総会では理事長報告として扱うことし、理事の欠員については補充せず、利益相反委員会担当理事および小児専門管理栄養士制度合同協議会は奥山理事長が代行することとした。

8) 刑事告訴されている医療事故に対する学会からの意見書について（奥山理事長）

奥山理事長より資料に基づき、学会員が刑事告訴されたと報告があり、弁護士とも相談の上、学会として意見書を出すことが提案され、承認された。

9) ラオス小児外科プロジェクト後援依頼について（奥山理事長）

奥山理事長より資料に基づき、日本WHO協会からラオスにおける小児外科卒後研修プログラムの確立に対する後援依頼があったことの報告があり、①小児外科専門医筆記試験問題を参考にさせていただくこと②フィルムライブラリーの閲覧をさせていただくこと③後援名義と依頼が挙げられており、①は筆記試験問題は回収しているため、HPに掲載している小児外科専門医になるための申請条件を参考にしてもらうこととし、②③は承認することで回答することとした。

4. 報告事項

1) 理事長報告（奥山理事長）

(1) 大阪医科薬科大学からの寄贈本「活動年報 2020」を受領した。

(2) 外科系学会社会保険委員会連合からの寄贈本「社会保険診療報酬に関する改正要望書」を受領した。

(3) 外科系学会社会保険委員会連合からの寄贈本「外保連試案 2022」を受領した。

(4) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.387」を受領した。

(5) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.388」を受領した。

(6) 国際医学情報センターからの寄贈本「あいみつく vol.42-3」を受領した。

(7) 難病医学研究財団からの寄贈本「難病研究財団ニュースNo.55」を受領した。

(8) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！ Vol.189」を受領した。

(9) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！ Vol.190」を受領した。

(10) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER 2021年9月号」を受領した。

(11) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER 2022年1月号」を受領した。

(12) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol.51-10」を受領した。

(13) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol.51-11」を受領した。

- (14) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY vol.51-12」を受領した。
- (15) 日本小児麻酔学会からの寄贈本「麻酔博物館設立 10 周年記念」を受領した。
- (16) 長屋昌宏名誉会員からの寄贈本「遙かなる赤ちゃんの外科」を受領した。
- (17) 日本結核・非結核性抗酸菌症学会からの通信文「役員交代のお知らせ」を受領した。
- (18) 国民生活センターからの通信文「乳幼児による水で膨らむボール状の樹脂製玩具の誤飲にご注意！」について（情報提供）を受領した。
- (19) 「第 1 回「外科医のインセンティブ」に関する合同委員会」資料を受領した。
- (20) 日本医学会連合からの通信文「門田分担班来季の研究調査について」を受領した。
- (21) 「解熱鎮痛剤アセトアミノフェン静注液の過量投与に関する注意喚起について」を受領した。
- (22) 「2021 年度秋季シンポジウム委員会議事録」2024 年開催の秋季シンポジウムの会長は田中潔先生（北里大学）に決定したと報告された。

2) 次回定例理事会日程の確認（奥山理事長）

次回理事会は令和4年3月8日（火）11：00～16：00 大阪大学東京オフィスにて開催することが確認された。

理事長 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_

理 事 \_\_\_\_\_